

金峰山山行報告

1. 行程

- ・ 日程：10月4日（日）～ 5日（月）
- ・ 集合：JR 塩山駅改札口出口 9時集合（塩山駅からタクシーで入山）
塩山駅 9:02＝大弛峠 10:04 着 準備運動後 10:17 出立。

（コースタイム 加田 SL 記録）

10月4日（日） 天候：快晴

大弛峠(2365m)10:17⇒11:10 朝日峠 11:15⇒12:16 朝日岳 2579m（昼食）12:45
⇒14:20 金峰山（2595m）15:00⇒^{ごじょういわ}五丈石 15:10⇒15:45 金峰山小屋（宿泊）
＝日の入 17:36＝ 実働 5時間 28分

10月5日（月） 天候：霧、曇後晴（曇天のため、山頂ご来光観賞止め）

金峰山小屋 7:00⇒砂払いノ頭 8:00⇒9:07 大日岩(2201m)9:30⇒10:15 大日小屋 10:
20⇒11:15 富士見平小屋 11:30⇒瑞牆山荘 12:13 実働 5時間 13分

（帰途温泉入浴後＝葦崎着）

瑞牆山荘 12:55＝（路線バス）＝13:17 増富の湯（入浴&懇親食事会）15:11＝
（タクシー）＝JR 葦崎駅 15:50（解散）

2. 参加者（敬称略）

三浦（L）、加田（SL）、河野、伊藤、岩井、鈴木夫妻、荻山、須永、（ゲスト）松山
計 10名

3. 山行記（三浦 L）

奥秩父の盟主金峰山（2599m日本・山梨百名山）昨年の計画が台風で中止となり今年リベンジ山行となった。塩山駅に降り立つと心配した天気も見上げる空は秋晴れで参加者（10名）一同気分爽快！塩山駅ほぼ 9 時に予約のタクシー 2 台に分乗し登山口の大弛峠（2365m）へ向かった。タクシーは塩山駅（標高 410m）から大弛峠へ標高差 1944m をヘアピンカーブもある九十九折の道を快調に登って行く、峠に近くなると常緑樹の中に黄葉・紅葉が陽に映えて一段と綺麗だ。また峠手前？Km ぐらいから既に駐車場が満車であぶれた登山者のマイカーの駐車が列が道幅を狭くしている。ほぼ 10 時大弛峠に到着。トイレ、準備体操、各自体勢を整え 10:17 出発、ほとんどが国師岳方面への登山者である。

駐車場脇の目立たない登山口を入り、シラビソの樹林帯の中を歩く。1 時間ほど歩いて小さな鞍部の朝日峠に到着一息入れて朝日岳に向かう。そのころ左手の縞枯れの立木の間から富士山が雲の上に頭を出しているのが望まれた、まだ冠雪はなく逆光で黒く墨絵を思わせる風景。朝日峠から約標高 150m 登り朝日岳山頂（2579m）に到着山頂標識は細い板切れに墨で書かれた質素なもので立て掛けてあるだけで持ち運べる状態だった。その先の少し開けた眺めのいい場所があったので昼食を摂る。朝日岳では眺望が開け目指す金峰山の五丈石も眼前に迫って見える。甲斐駒、白根三山も見えている。



昼食後今日の目的地金峰山を目指す、ガレ場を下りしばらく平坦な道を行くと金峰山への登りになり道の両脇にはシャクナゲが多い、花期には素晴らしい花が見られるだろう。森林限界に入るとハイ松が続く道を登るとやがて稜線に出る。平坦な岩場を山頂を目指しての稜線散歩となる。山頂手前にある大きな岩稜の上に行くか、下の岩場を注意しながら進むと山頂標識（2599m）に出る。さらに前方には五丈石ごじょういしの全容が迫って見える。その麓に金峰神社の鳥居が立っている。岩の頂上には怖いもの知らずの若者の立つ姿がシルエットが鮮やか、また岩壁にはこれから頂上を目指し登ろうとする若者の姿があり、われわれには無謀としか思えない、いや羨望かも知れない気持ちで五丈石を後に今日の宿金峰山小屋（2420m）へとハイ松とガレ場の道を標高差 179m 下る。15 : 45 小屋に無事到着。小屋は定員 150 名とこじんまりした小屋である。日曜日と言うこともあってか宿泊客はわがグループを含めて 3,4 組で 30 名ほどでゆっくり、のんびり過ごせた。この山小屋でほかと変わった点は夕食が洋風のワンプレートでスープとワインが付いている、味はいいがやや量的に不足なひとがいるかもしれない。朝食は、お粥これも結構美味しくお変わりをする人が多かった。我々の食事、歓談するテーブルの下は真っ黒で大きな、静かなラブラドル犬の寝場所になっており時々出入りしている。

5 日朝からきのうと変わって霧が深く曇り空、気温も低い。金峰山頂からのご来光は諦めゆっくり朝食後下山する。気温は低く手が冷たい風はあるが霧はなかなか晴れない。岩尾根を注意して下る。千代ノ吹上げを過ぎると樹林帯の道さらに下り 9 時ちょっと過ぎに大日岩に着く、霧で全容が分らなかったが時々霧が晴れてその全容が見えた。確かに大きな岩塊だ。信仰の対象となるのも納得。少し休んで大日岩の基部の横を巻いて岩場の急坂を下ると左手に大日小屋を見下ろす場所に出てさらに展望のない樹林帯を 1 時間ほど下って富士見平小屋に着く。前が開けたいい場所だ、多分季節にはいろんな花々が見られるところの様だ。トイレ休憩を済ませさらに下る。ミズナラ林の林間を過ぎ緩やかな傾斜になり白樺が目立つようになりやがて眼前に瑞牆山荘の建物が目に入る。12 時過ぎに全員無事に着いた。標高差 1000m 近い下りは長い、とくにガレ場、岩場の連続で注意力を要し神経が疲れる。トイレ、アイスクリーム、ビール休憩後 12 時 55 分のバスで「増富の湯」に向かう。加田 SL が運ちゃんと交渉して帰途のタクシーを格安予約してくれ、温泉の 100 円割引券を入手する。（富士見平小屋で河野会長が目にして入手した割引券は 50 円引き）。「増富の湯」でゆっくり汗を流し飲食・懇談後 15 時 11 分迎いのタクシーで JR 蕪崎駅へ 15 時 50 分駅前解散。当初予定の時間より早く着いたので前の「あずさ 24 号」に間に合い乗車変更し先に帰られた方を除いて 7 名は当初予定の「あずさ 26 号」まで駅構内の蕎麦屋で二次会＝ビールも生ビールもあり、蕎麦にも変わった種類、メニューがあり蕎麦屋としてちょっと特異な店で話題を提供してくれ楽しい時間潰しができました。

蕪崎から家に帰ってニュースで、ノーベル医学生理学賞を受賞されたのが蕪崎出身の大村智さん、山行とは関係ありませんね。

(2015.10.6 文責：三浦)